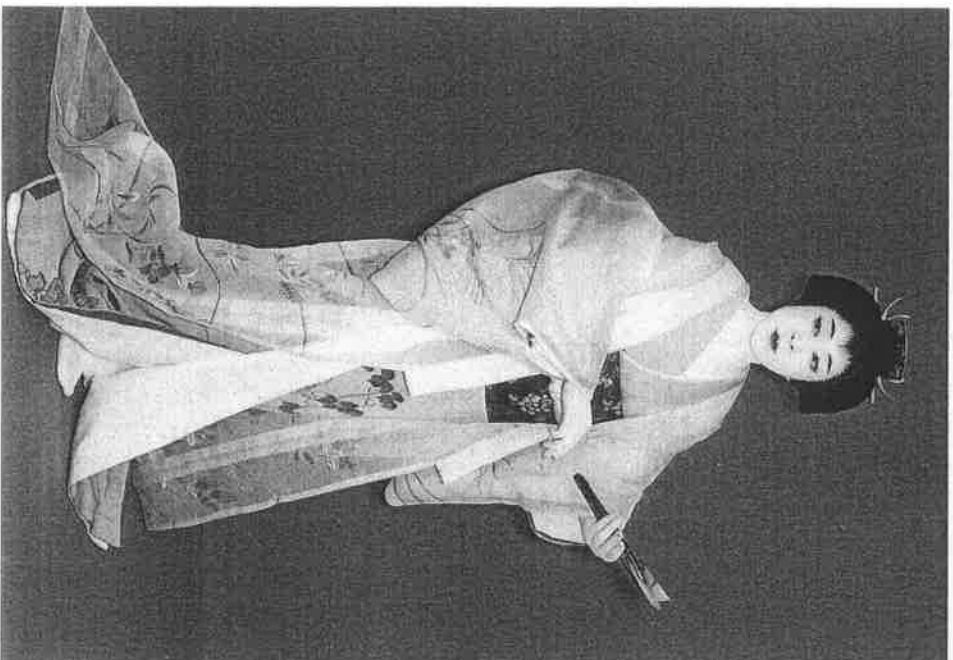


藤間富士齋



概要

氏 名 藤間富士齋 (ふじま ふじさい)
職 業 日本舞踊家
住 所 熊本市帯山4-51-43
主な活動地 熊本県及び国内外

(特別賞)

藤間富士齋氏は、熊本の日舞の草分け初代藤間勘太女氏の後継者として、幼少の頃から稽古に励み、十三歳で師範名取になるや、藤豊会を主宰、門弟の指導育成にあたってきた。

その間、東京に舞踊研究所を開設し、さらに熊本市等から派遣されてヨーロッパ、アメリカ、中国など海外公演にも参加。熊本では毎年藤豊会公演を続け、たえず伝統芸能の伝承、興隆に心血を注いでいる。

平成十一年十月、熊本県立劇場で行われた「二十一世紀へのおくりもの」公演においては、ラウエル作曲「ボヒロ」の日本舞踊の振り付けを行い、バリエと日本舞踊の総勢四十人にのぼる群舞とオーストラが融合した舞台は、我が国初の先駆的、実験的な試みとして全国的に注目を集めた。

「ボヒロ」の他、熊本の風土や歴史を素材とした創作舞踊にも意欲的に取り組み、「山鹿灯籠踊り」、「くまもと四季曆」、「細川ガラシア」など振り付けた作品は千余りに及び、本県文化の向上に貢献している。

なお、平成十一年三月、東京・歌舞伎座で開かれた藤間流大会において、娘・豊大郎とともに常磐津「月」を好演。この作品は、四世家元として、娘・豊大郎とともに常磐津「月」を好演。この作品は、四世家元として、五世家元が初演した田緒あるもので、二人は四世家元（尾上松緑）直伝の完成度の高い清冽な舞台を披露して会場の大きな喝采をあげるなど、全国にその名を広めた。

現在、(社)日本舞踊協会熊本県支部長、熊本県日本舞踊協会理事として本県の日本舞踊の普及に尽力しており、今後ますますの活躍が期待されている。

これまでの活動歴

昭和二十三年	(一九四八年)	十三歳で藤間流派師範、名取(初代藤間豊大郎)となり藤豊会を主宰
昭和二十九年	(一九五四年)	山鹿市の依頼で灯籠を頭に載せた灯籠踊りを発案し振り付ける
昭和四十二年	(一九六七年)	東京に舞踊研究所を開設、古典舞踊の伝承に心血を注ぐ
昭和四十四年	(一九六九年)	創作舞踊「細川ガラシア」、「二人静」他の新作振り付け・主演により第四回熊本県文化懇話会新人賞受賞
昭和五十八年	(一九九〇年)	二代目藤間勘太女襲名
平成二年	(一九八三年)	国立劇場(東京)で藤豊会公演を主催
平成三年	(一九九一年)	藤間富士齋改名
平成九年	(一九九七年)	国立劇場(東京)で藤豊会公演を主催
平成十一年三月	(一九九九年)	東京・歌舞伎座で開かれた藤間流大会で娘・豊大郎と常磐津「月」を上演
十月		熊本県立劇場で行われた「二十一世紀へのおくりもの」(バリエ・日本舞踊・オーストラの饗宴)において、ラウエル作曲「ボヒロ」の日本舞踊を振り付ける
平成十二年	(二〇〇〇年)	熊本県文化懇話会賞受賞
平成十三年八月	(二〇〇二年)	国立劇場で開かれた藤間流大会で娘・豊大郎と長唄「旅」を振り付け、上演
海外公演		ヨーロッパ、アメリカ、中国など海外公演多数